

全体会 分科会振り返り

分科会の総括報告

玉川大学教育学部 小林亮 教授

2012年11月23日（金・祝）にバルテノン多摩で開催された「ユネスコスクール地域交流会 in 関東」の午後、参加者は6つの分科会に分かれて、ユネスコスクールの直面する諸課題について、情報交換と事例や問題意識の共有を行いました。

第1分科会は「地域との連携」をテーマに議論が行われましたが、ここでは地域コミュニティのもつ豊かな人的資源をユネスコスクールの学校現場での教育活動にもっと活用すべきこと、またユネスコスクールが地域社会のためにどのような貢献をなすうのかを明確にすべきこと等が論点として出されました。

第2分科会は「はぐくみたい力・学力」がテーマでしたが、ユネスコスクールにおける学習目標として、人間の多様性を認め、その文化的多様性に建設的に対応できる力を養うこと、そして人類社会が直面する種々の深刻な問題に対する問題解決能力を育成することが特に重要であるという認識が共有されました。

第3分科会と第4分科会は、「学校間交流」をテーマに行われましたが、とくに異なる地域間の交流、国際間の交流、そして異学校種間の交流において、それぞれが積み上げてきた教育実践の成果やリソースをどのように学び合い、共有していくのか、また交流する当事者同士が相手との違いと共通性の両方をどのように認識し、受け容れていくのが交流における緊要の課題であるという指摘がなされました。また地域特性をうまく生かした交流こそが長続きする鍵であるという意見も出されました。

第5分科会のテーマは「校内体制」でしたが、校長はじめユネスコスクールやESDに熱心に取り組んでいる教員が異動等で入れ替わった後、学校全体としてどのようにユネスコスクールの教育実践を持続していくのかという問題意識が共有されました。これについて、一部の先生方だけがESDに取り組むのではなく、学校全体としてESDを推進していくためには、「ESDカレンダー」のような科目横断的なホールスクール・アプローチを確立していく必要があるという指摘がなされました。

第6分科会は高等学校のグループでしたが、高校生の学力や成長段階に応じて、たとえば「アートマイル」に見られるような発信力やコミュニケーション力を鍛えるような国際交流をもっと積極的に行うべきだという意見が表明されました。また地域のユネスコ協会（青年部）とも連携した地域ぐるみの青年ESDプロジェクトを推進してゆく可能性についても提言が出されました。

全体として、今回のユネスコスクール地域交流会では、さまざまな学校種の先生方、また行政、NPO、大学、地域コミュニティという異なったセクターの方々が参加することにより、学校、家庭、行政、大学、地域をつなぐ学際的なESDのネットワークづくりがユネスコスクールの推進にとって決定的に大切であるという認識が明確に浮き彫りにされました。また英国サウスエンドの先生方はじめ、海外のゲストもお招きして議論に参加して頂いたことで、ユネスコスクールの地域交流はグローバルなネットワークにつながっていく営みであるというユネスコスクール設立の原点が今日的状況のもとで改めて認識されたことも大きな成果であったと言えるでしょう。

